

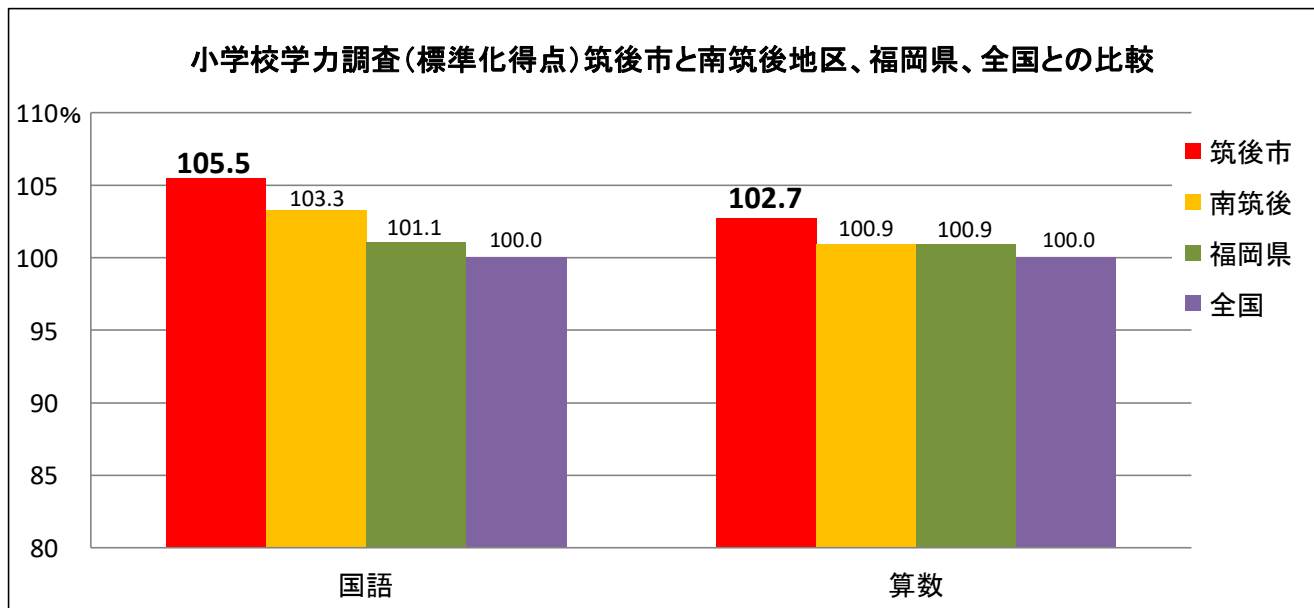
令和3年度 全国学力・学習状況調査結果報告

1 全国学力・学習状況調査の概要

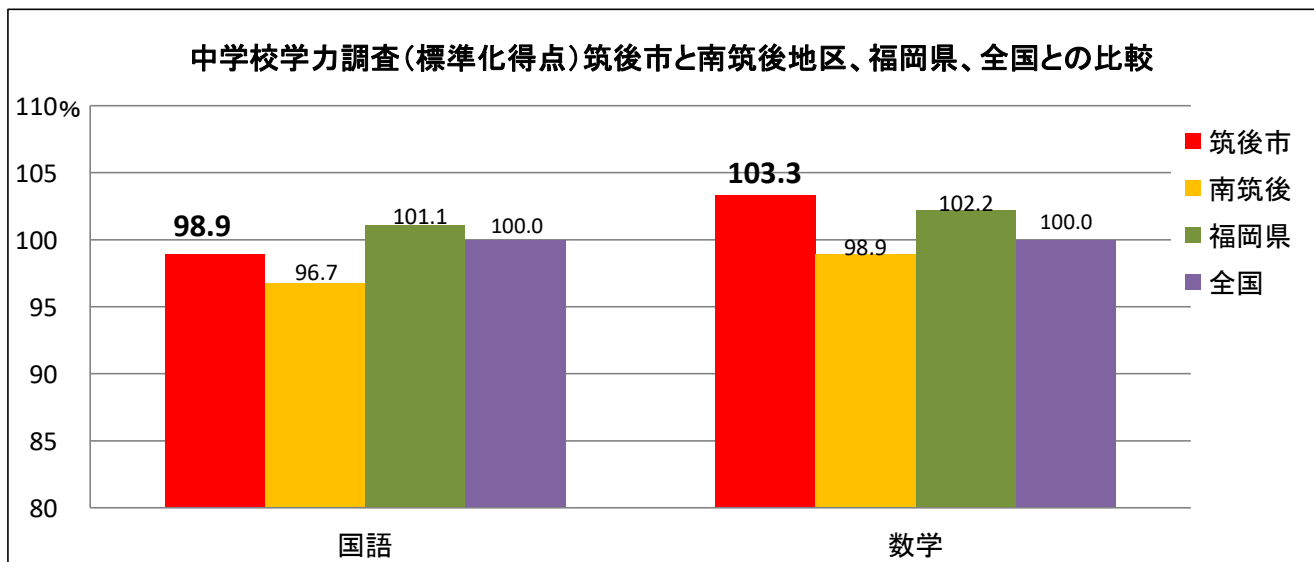
- 調査期日：令和3年5月27日（木）
- 調査対象：小学6学年生児童（468人）及び中学3年生生徒（414人）
- 調査事項：① 教科に関する調査（国語、算数・数学）
※平成31年度から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施されている。
② 質問紙調査（学習面及び生活面に関するアンケート）

2 小学6年生の状況

※標準化得点とは、全国の平均正答数を100とした時の各地区の平均正答数の割合をパーセントで表したものです。
※南筑後地区とは、南筑後教育事務所が管轄する6市2町のことです。



3 中学3年生の状況



小学6年生の標準化得点は、国語、算数ともに全国、福岡県、南筑後地区を上回る結果となりました。
中学3年生の標準化得点は、国語は南筑後地区を上回り、全国、福岡県を下回る結果となりました。
数学は、全国、福岡県、南筑後地区を上回る結果となりました。

4 各学校での取組

市内の小・中学校では、学力の向上に向けて以下のような取組を実施しています。

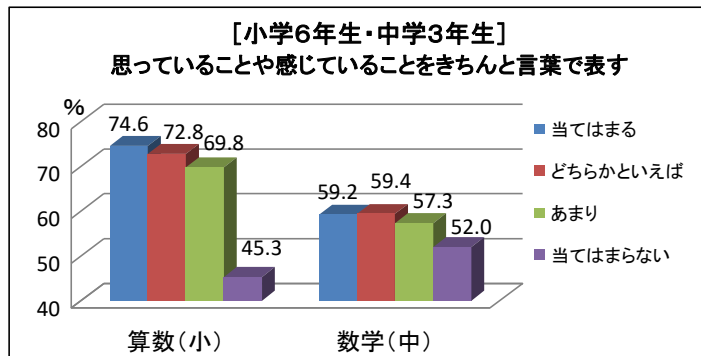
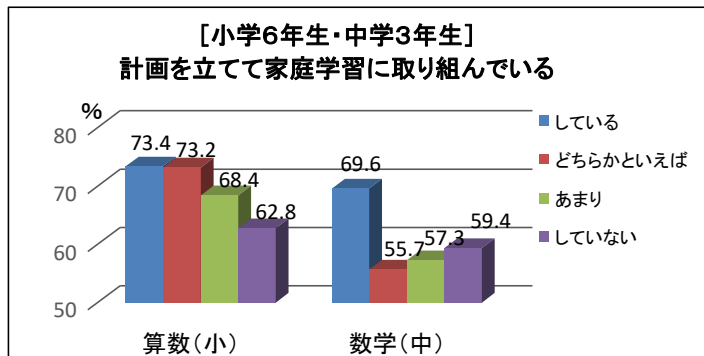
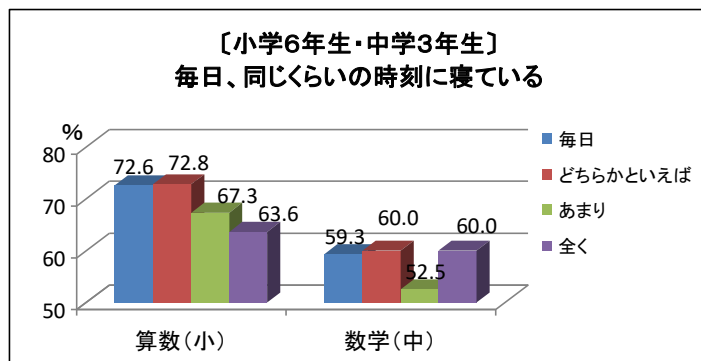
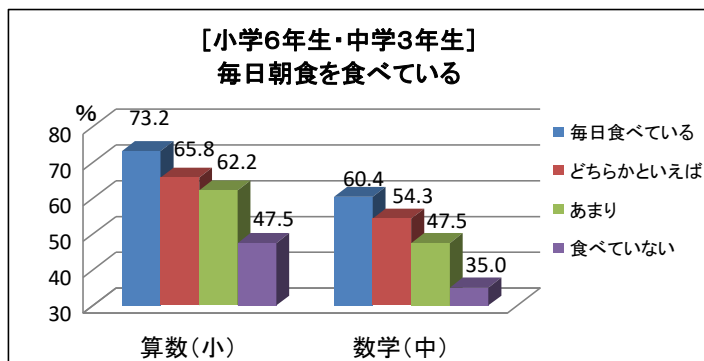
- 1 基礎的・基本的な内容の定着、学習したことを活用する力の育成をめざして、朝や昼の活動の時間を活用したり、学力補充の時間を位置付けたりして、児童・生徒の指導にあたっている。
- 2 複数の教師で授業を行うチーム・ティーチングや少人数学習、個別指導等のきめ細かな指導体制を充実させながら、全ての児童・生徒が分かる授業づくりに努めている。
- 3 一人一台端末等のICTを活用して、全ての児童・生徒が分かる授業づくりに努めている。
- 4 小学校において、複数の教師の目で児童を指導するという観点から、高学年での教科担任制や交換授業、合同授業を実施している。
- 5 朝の活動における読書や読み聞かせ等を通して、読書活動の推進を図っている。
- 6 学習の進め方や学習規律を各中学校ブロックで統一して、共通に指導を行っている。
- 7 家庭学習の進め方について、各校で共通して指導を行っている。
- 8 小中連携の推進の中で小学校と中学校で授業等を公開し合い、指導方法の共通実践等を通して授業力の向上を図っている。
- 9 「さん」付けで名前を呼ぶなどあたたかい授業実践に取り組んでいる。

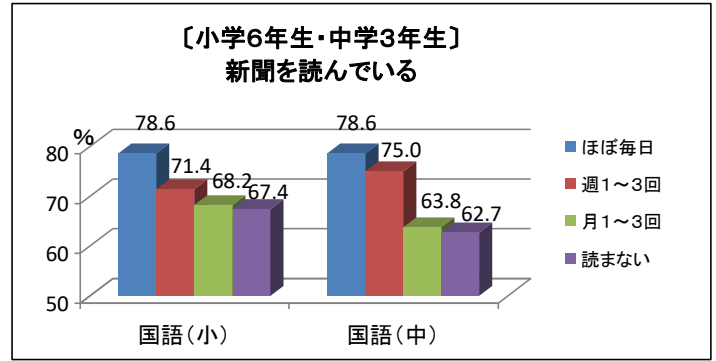
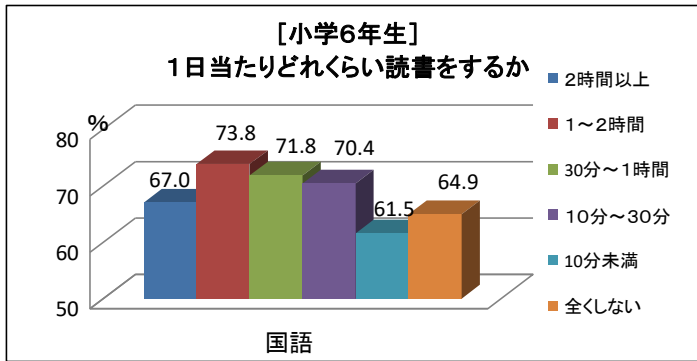
5 教育委員会としての取組

- きめ細かな学習指導を目指した、35人以下学級の実施（小）と基礎学力向上教員の配置（中）
- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり研修会の実施（モデル校の指定）
- 一人一台端末、電子ドリル教材の導入、Wi-Fi環境の整備
- 小学校と中学校の連携の推進（市及び各中学校ブロックの推進委員会の開催等）
- 児童・生徒一人一人の個の特性や家庭の様子等を把握し、課題に応じた対応を実施するスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置
- 児童の体力向上と小学校体育の授業力向上を支援する指導主事の配置
- 市内の全ての児童・生徒の学力向上に向け、教育委員会事務局と校長会が協議し、共通理解を図る学力向上推進委員会の開催
- 学力テスト及び児童生徒質問紙の分析と課題解決に向けた取組の啓発（リーフレット「子どもの学力を高める4提言」発行、ホームページの掲載等）
- 将来の夢に向けた進路意識を育てるキャリア教育の推進
 - ・小学生親と子で学ぶキャリア教育
 - ・偉人等の伝記を読んでの意見発表会 等

6 質問紙調査(学習及び生活等アンケート)からみえる課題と対策

以下に示しているグラフは、児童生徒質問紙で回答した選択肢ごとの平均正答率を示しています。具体的には、左下のグラフを見ると、算数のテストにおいて、毎日朝食を食べている児童（青いグラフ）の平均正答率が73.2%なのに対して、全く食べていない児童（紫のグラフ）の平均正答率は47.5%という結果を示しています。





このグラフのように、質問紙調査（学習及び生活等に関するアンケート）と学力調査（平均正答率）を関連付けますと、児童・生徒の学力は、家庭の学習や生活の様子と関係が大きいことが分かります。同様に調査結果から、小・中学校ともに家庭と学校が連携して取り組む大切なポイントとして次の4点が明らかになりました。

1 規則正しい生活に心がける

毎日朝食をきちんと食べている、毎晩決まった時刻に寝ている児童・生徒の方が平均正答率が高いという結果が出て、学力が高いということが言えます。規則正しい生活を送ることは、心や体の健康という面から見ても大切なことであることはよく言われています。学力の面から見ても同じことが言えると思われれます。朝食の摂取、就寝時刻はもちろんのこと、起床時刻や睡眠時間等も含めた規則正しい生活を送ることで、学力のさらなる向上も期待できます。家庭で規則正しい生活について話し合い、健康的な生活を送るとともに、学力向上を目指していきましょう。

2 宿題を含む家庭学習の習慣を定着させる

中学校は、小学校に比べると、授業内容が難しくなり、授業の進み方も速くなります。あらかじめ授業内容を自分の力で調べたり（予習）、学習した内容をその日の内に振り返って整理したり（復習）する程、学力の向上に繋がっていることが分かっています。更に、家庭学習については、家庭と学校が連携し、「子どもの学力を高める4提言(筑後市ちっこ教育の日推進委員会作成)」を参考にするなどして自分で学習の計画を立てて取り組む習慣をつけることも大切です。その際、保護者が児童・生徒の頑張っている点について褒めたり、応援したりすることも、児童・生徒の学習意欲を高めることにつながります。

3 保護者が児童・生徒と会話をする時間や機会を設ける

アンケート結果から小・中学校ともに思っていることや感じていることをきちんと言葉で表している児童・生徒ほど算数・数学の平均正答率が高いという結果になっています。つまり、普段から周りの人とコミュニケーションをよくとっている児童・生徒の学力が高いことが言えます。家庭でのコミュニケーションの場合、児童・生徒は、会話をする中で、学習や生活等いろいろな自分の姿や気持ちを保護者に受け入れられたと感じ、褒められたり応援されたりすることで学習や規則正しい生活等に取り組もうと意欲をより一層高めます。また、地域や社会に関心を持つことも大切です。小・中学校ともに新聞を読んでいる児童・生徒ほど、国語の平均正答率が高いという結果になっています。家庭で学校や日常の出来事、将来の目標や夢、その他、地域や社会で起こっている出来事などについてお子様と話をする時間を少しでも設けることが大切です。

4 読書活動に親しみをもたせる

特に、小学校の段階では、読書に親しむ時間と学力には関係があるようです。本をたくさん読むことで多くの知識を得るだけでなく文章を読み取る力を付けることにつながります。また、伝記を通して先人の生き方や考え方等に触れることで子どもたちが将来の展望をもつことができ、自分の進路を考えていく上でも良い影響を与えることができるのではないかと考えています。読書活動に親しみをもたせることは、児童・生徒の学習意欲や読解力を高める上でも期待できます。家庭でも、親子で読書をする時間を設けるなど、読書活動に親しみをもつ実践をされてみてはいかがでしょうか。